

山形県山形市方言の原因・理由表現

竹 田 晃 子

(1)はじめに

山形県山形市方言の原因・理由表現について、「原因・理由表現 調査項目一覧」に掲載された調査項目にしたがって報告する。

山形市は山形県の県庁所在地で、内陸のいわゆる村山地方に位置する。同地方に属する天童市（北）、上山市（南）、山辺町（西）に囲まれ、東は奥羽山脈を経て宮城県仙台市に接している。東北的な特徴として、カ行・タ行の濁音、無型アクセント、格助詞の不使用、アスペクト形式（継続・過去）の「テダ（ッダ）」などがある。一方で、自発の「ル」・可能の「イ」・当為の「ンナネ」などが用いられるほか、連母音アイが融合しない場合があり、過去の「タッタ（テアッタ）」が用いられないなど、東北方言に一般的な特徴があてはまらない現象も多い。

原因・理由表現ではもっぱら「カラ」が用いられるが、今回の調査では例文によって「テ」「ンデ」が回答された場合がある。竹田（2007）「東北方言における原因・理由表現形式の分布」(『全国方言文法辞典《原因・理由表現編》』<http://hougen.sakura.ne.jp/shuppan.html>)によると、1940（昭和 15）年頃には山形市を含む村山地方一帯において、カラとの併用でサケ・サケデ・ハゲなどが回答されたが、1980（昭和 55）年頃の調査結果である国立国語研究所（1989）『方言文法全国地図』第 1 集では山形市では回答されず、今回の調査でも確認できない。

(2)調査の概要

話者は、山形県山形市八日町出身、1942 年生まれ（調査時 64 歳）の男性である。24～20 代後半を静岡県内で過ごし、30 代から現在に至るまで山形県山形市に居住している。ある程度の共通語と山形市方言を使い分けるが、典型的な山形市方言の無型アクセント話者であり、職場・家庭の両方で山形市方言を使用する。

調査日は 2006 年 11 月 25 日、調査場所は話者自宅で、調査者は竹田である。

調査方法は、話者に調査票の共通語例文を確認してもらい、その場で翻訳した山形市方言を発話してもらった。調査時間は 1 時間弱である。調査者が提案した形式が採用され、発話してもらった場合もあるが、ここでは話者の自発的な発話を中心に採用した。

(3)文字化について

- ・方言文はカタカナで表記し、該当部分を下線で示す。
- ・複数の例文が発話された場合、その中で最も典型的と思われるものを選んで示す。文法に関わるもので複数の形式が使用できる場合は、その部分を { } に入れ、／で区切って発話順に列挙した。
- ・文末の「？」は上昇音調を示す。疑問文であっても上昇音調を取らないものには「？」は付さない。
- ・句末または文末における「シタガラー」など長音が無声化する場合があるが、特記しない。
- ・ガ行音・ダ行音は、語頭音以外では鼻音で実現される場合があるが、特記しない。
- ・「シ」「ス」「ジ」「ズ」は中舌母音で実現されるが、特記しない。
- ・長音・促音・撥音などの特殊拍が短い場合があるが、特記しない。

- ・例文の方言訳を調査時に省略した場合、(調査省略)と表記した。
- ・言いよどみは*で表記した。

1 「から」と「ので」の用法

1-1 事態の原因(接続調査を兼ねる)

- 1-1-1 マイニジ アメガ フッカ センタグモノワ カワガネ。
 1-1-2 マイニチ アメダガラ センタグモノ カワガネー。
 1-1-3 テンキ イーガラ センタグモノ ヨーック カワゲー。
 1-1-4 コノヘヤ スズガダガラ シゴドニ シューチュー デギル。
 1-1-5 ユンベ オーアメ フッタガラ {ジメンニ/ジメンサ} ミズタマリ デギッダ。
 1-1-6 コドモダガラ ワガラネガッタナー。

1-2 行為の理由(後件のモダリティ制限の調査を兼ねる)

- 1-2-1 タイチョー {ワルイガラ/ワルクテ} * シゴド {ヤスムゴドニ シタハー/ヤスムゴドニ シタ/ヤスムハー}。
 1-2-2 タイチョー ワルイガラ キョー * シゴド {ヤスンベハー/ヤスムビヤー}。
 1-2-3 ンー ヨミジ クライガラ イッショニ カエンベハー。
 1-2-4 アガンボ ネデンダガラ スズガニ シロ。
 1-2-5 アガンボー ネデッカラ スズガニ シテケロ。
 1-2-6 アメ フッカ カサ モッデゲー。

1-3 判断の根拠

- 1-3-1a ホシ デッタガラー アシタモ テンキ イーベナー。
 注:「デッタ」は「デテイダ」のイが脱落、テが促音化した語形で、南東北では一般的。以下、動詞の「ッダ」については同。
 1-3-1b (調査省略)
 1-3-2 アノヒト ヒダリテ クスリユビサ * ユビワ ハメッダガラ ケッコンシテイルナ。
 1-3-3 ンー セギ デルシ ネズッポイガラ カゼ {ヒイダノガモ シンネーナー/ヒイダガナー}。
 1-3-4 サッキ * シンブンハイタズノ オド シタガラ ゴジワ スギダナー。

1-4 発言・態度の根拠

- 1-4-1 アブナイガラ コノ カワデワ アソブナ。
 1-4-2 カゼ ヒグド ワルイガラ アヅギシテ デガゲロー。
 注:「～スルトワルイ/～スットワルイ」は「～するといけない」の意で、一般的な山形市方言。
 1-4-3 キョーノ スゴド * ミナ オワタガラ モー カエッペー。

1-5 理由を表さない用法

- 1-5-1 スグニ モドッテクッカラー ココデ マッテデ ケロー。
 1-5-2 イッペンデ イーガラ ピラミッドサ ノボッテミダエナー。
 1-5-3 オネガイダガラ カネ カシテケロー。
 1-5-4 クルマ ヨブガラ スグ * ビョーインニ イゲ。

1-5-5 ツグエノ ウエサ オイデアッカラー オレノ サイフ トッテキテ ケネガ。

1-6 原因・理由節の述語用法 (XはYからだ)

1-6-1 A: キブン ワルイ。

B: アンナニ イッパイ ノムガラヨー。

1-6-2 A: (調査省略)

B: ニズヨーダガラダベナー。

1-6-3 A: (調査省略)

B: オマエガ ブローノ ゴドバッカリ ホメルガラデネーガー?

1-6-4 A: (調査省略)

B: オレガ ブローノ ゴドバッカリ ホメッカラガナー。

1-6-5 A: (調査省略)

B: ブローバッカリ ホメラレッカラガモ シンネナー。

1-6-6 A: (調査省略)

B: ソーレワ ハゴブドギ オドシダガランネガー。

1-7 従属節内のモダリティ表現

1-7-1 伝聞・推定表現など

1-7-1-1 コンヤ * アメダッテ ユーガラ ハヤグ カエツベハー。

コンヤア アメダソーダガラ ハヤメニ カエンベー

注:「フル(降る)」は言わないこともないが、この場合は「昔の人だったら言わない」とのこと。

1-7-1-2 コンバン アメラシーガラ ハヤメニ カエンベー。

1-7-1-3 コンバン アメミダイダガラ ハヤメニ {カエロー/カエンビヤア}。

1-7-1-4 ドーモー ネズー アルヨーダカラ ハヤメニ カエルゴドニシタ。

1-7-1-5 アメ {フット ワルイガラ/フッカモ スンナイガラ} カサ モッテキタ。

1-7-2 推量表現

1-7-2-1 アメ フンベガラ カサ モッテイゲー。

1-7-2-2 ヤマデワ カーナリ ユギ フッタベガラ ナダレガ シンパイダナー。

1-7-2-3 タイシタ アメニ ナラネベガラー カサア モッテイガネ。

1-7-2-4 ソトワ サムイベガラー * アズギシテ イグビヤ。

1-7-2-5 コノ ブンダド アシタモ アメダベガラー エンソグワ チューシダベー。

1-7-3 丁寧表現

1-7-3-1 チョーット ハナシ アッカラ コッチャ {キテモランネベガー/キテモランネベ
ガッス}。

注:場面の違いによっては、丁寧語「(ッ)ス」が付く場合がある。

1-7-3-2 キケンダガラ カケコミジョーシャワ ヤメンベー。

注:「危険です〜」にすると、標準語例文と同じになる。

1-7-3-3 リョースン キテルンデ キョー チョット ハヤイケド カエラシテーモラッテ
イーベガー。

1-8 文末用法

1-8-1 倒置

- 1-8-1-1 コゴデ チョット マッテデー。 スグ モドッテクッカラー。
 1-8-1-2 チョット ゴセンエン カシテ * ゲズマズマデーニワ カエスガラー。
 1-8-1-3 エギマデ ムガエニ キテケロー。 ナナジニワ ツクガラ。

1-8-2 終助詞的用法

- 1-8-2-1 アドデ モーイッカイ デンワ スッカラ。
 1-8-2-2 チョット デカケデ クッケドー オヤツー プリンガ レーゾーコニ ハイッテッカラ。
 1-8-2-3 オマエノ ゴドワ ケッシテ ワスレナイガラー。
 1-8-2-4 トーチャンニ ユッテクッカラナー。
 1-8-2-5 ゴズマデ エギマエノ キッサテンサ イッカラー。
 1-8-2-6 チョット スーパーマデ カイモノニ イッテクッカラー。
 1-8-2-7 シャベタラ タダデ オガネガラナー。

2 「のだから」の用法

2-1 「から(ので)」との相違

- 2-1-1a イヤ ジカン ナイガラ {イソイダ/イソグベ/イソゲ}。
 2-1-1b ×ジカン ナインダガラ イソイダ。
 注:「ジカン ナインダガラ {イソグベ/イソゲ}。」は言える。
 2-1-2 テンキ イーガラ サンボニ デカケタ。
 ×テンキ イーンダガラ サンボニ デカケタ。
 2-1-3 ウン マイニジ アメ フッカラ センタクモノ カワガネ。
 ×マイニジ アメ フンダガラ センタグモノ カワガネ。
 2-1-4 ユンベ オーアメ フッタガラ * ジメンサ ミズタマリ デギッダナー。

2-2 意味・用法(接続調査を兼ねる)

2-2-1 確かな事実とその当然の結論

- 2-2-1-1 コンナニ * ガンバッタンダガラ コンードワ ウマグ イグハズダ。
 2-2-1-2 ダーイジナ ハナシ シテルンダガラ コドモラワ アッチサ イッテロー。
 2-2-1-3 コツァー シンケンナンダガラ * カラガワネデケロー。

2-2-2 聞き手に関する情報—行動要求・認識要求

- 2-2-2-1 ワガインダガラ イッカイヤ * ニカイノ シッパイデ クヨクヨスナー。
 2-2-2-2 ジュケンセーナンダガラ モット シンケンニ ベンキョーシロ。
 2-2-2-3 セッカグ * リューガグ {スルンダガラー/スンダガラー} チャント ベンキョーシテコイヨ。

2-2-3 後件が聞き手の利益になる事柄の場合

- 2-2-3-1 ズカンワ マダ ジューブン アルンダガラ ユックリ シテイッテ ケロー。
 2-2-3-2 チャンスワ マダ アルンダガラ ゲンキ ダセー。
 2-2-3-3 モースグ タイーン デギンダガラ アド スコーシノ シンボーダー。

2-2-4 倒置

2-2-4-1 カラダニ キー ツケロヨ。 モー ワガグナインダガラ。

注：×「カラダサ」

2-2-4-2 ンー ジブンデ キメロヨ。 モー コドモジャナインダガラ。

2-2-4-3 ソリヤー シンパイスルー。 オヤナンダガラ。

2-2-5 終助詞的用法

2-2-5-1 オレー ゼッタイ カレド ケッコン スンダガラ。

2-2-5-2 チョット アマイ カオスット スーグ チョーシン ノンダガラ。

2-2-5-3 アノ ヤロド キタラ マッタグ サゲグセ ワルインダガラ。

3 接続詞「だから」の用法

3-1 接続助詞「から」の文に言い換えられ、前件・後件が同一の話し手によるもの

3-1-1 サイキン マイニジ アメダー。 ンダガラ センタグモノァ カワガネ。

3-1-2 モー ウジオ デル サンジップンマエダ。 ンダガラ ハヤグ オギロ。

3-1-3 スグ モドル。 ンダガラ コゴデ マッテデケロ。

3-2 接続助詞「から」の文に言い換えられ、前件・後件の間に話者交替があるもの

3-2-1 相手の発話中の事態Pを受け、それから導かれる帰結Qを述べるもの

3-2-1-1 A：(調査省略)

B：ウーン。 ンダガラ センタグモノモ カワガナクテ コマルー。

3-2-1-2 A：(調査省略)

B：ンダガラ カサ モッテゲ。

3-2-2 聞き手に結論を求めるもの

3-2-2-1_1 A：(調査省略)

B：ンダガラ ナニヤー。

3-2-2-1_2 A：(調査省略)

B：ンダガラ ナニー。

3-2-2-1_3 A：(調査省略)

B：×ンダガラ？

3-2-3 相手の発話中の事態や発話時の状況Pが、既知の事態Qの原因・理由であると認定するもの

3-2-3-1 A：(調査省略)

B：ソーカ ンダガラ * ミナ マダ コネンダー

3-2-3-2 コレダガラ レンキュー デガゲンノ ヤندانダナー。

3-2-3-3 アレダガラ レンキュー デガゲンノワ {ヤンダヤナー／ヤندانダヨナー}。

3-2-4 相手の発話中の事態や発話時の状況Pが、既に行った発話行為Qの理由であると認定するもの

3-2-4-1 ンダガラ ヤメロツテ {ユッタベアー／ユッタベナー}。

注：「ユッタベアー」のほうが適格。

3-2-4-2 ンダガラ スンナツテ ユッタベナー。

3-3 接続助詞「から」の文に言い換えられず、「あなたもわかっているはずなのに」という話し手の態度を表すもの

3-3-1 「あなたが…と言うから私は～と言う」という発話行為間の因果関係があるもの

3-3-1-1 A：サッキ タノンダ スゴド チャント ヤツテヨー。

B：ウーン。 キョージュエニワ ヤル。 イマ チョット イソガシ。

A：アシタマデワー ヤツテケロヨ。

B：ンダガラ キョー ヤルツテ ユッタベナー。

3-3-1-2 A：キョーワ オネガイ アツテ キタンダー。

B：{ナニィ？／ナニヤー？}

A：ダイジナゴドナンダー。

B：ンダガラ ハナシテミロー。

3-3-2 発話行為間の因果関係がないもの

3-3-2-1 A：サッキ タノンダ シゴド ヤツテケダガー。

B：ン？ ナニヤー？

A：ンダガラ ゴゼンチューニ タノンダ アノ シゴドヨー。

3-3-2-2 A：キョー チョード タナガサンサ アッタヨ。

B：ドノ タナガサン？

A：ンダガラ {キンナー／キンノー} {ハナシタ／ハナシッタ／ハナシタッケー}
サンチョーメノ タナガサンヨー。